



志深之里

二卷六

1卷5
508
21



45
508
21



或曰淳屠氏飲酒の戒甚し加へて曰、宣叔氏

唯ことと禁戒せんや書子微に沉酔干酒の戒あり

泰誓酒誥、敬敬皆皆沉酒の尙と云、然、率至深至切

なり、小宛ハ率王と刺し抑ハ武公自敬言也、亦疏縱の

害と云、是、下、莊周が以礼飲酒者始始半治常卒

半乱乱泰至則多多奇樂樂と林氏が口義に、初、筵杖々々也

乱乱て敬號號の載嗽嗽ぬ其其適當當に至至て、其其樂樂異常常

のりり多多或ハ辛辛競競と成成ると云、一、劉氏周幽の飲酒と

云、一、於、小人男女間間を醉と云、一、と得得る者者なく、象

庭のふゆみと家人のかきりてはるる
わきまをすまひしむるは
く見ゆきつるそのまじり
年を酒や六十と遠くも古く
まじりつるのまじり
くまの朝名利と貪りたるもの
まじりつるのまじり
まじりつるのまじり

古之人目短乎自見故以鏡觀面智短乎自知故
以道正己韓子

唐皇れ三鑑人君に至りて自觀の治三代
秦長の才鑑はるる
趙高の奸雄邪曲を照らす
世にたすしてはるる我八咫神鏡

神皇傳國の宝至りて我國の道
も神勅とるる
天口事書等古記と見らるる

乙未、重九、因窓遺懷

○ 草衣拂^テ緑圍^ク蓬局^ク 杜宇^一声^醉恨^醒
古徑^榴花^漸雨^寮 短檐^言葉^帶風^聲
眼睛^且笑^山雲^靜 身老^轉娼^邦國^寧
烟寺^暮鐘^少頑^夢 破窓^殘卷^照流^螢

○ 遠^刈乾^の境^内、夜^川十五^七百^村と云[、]星^の里^の名^を
義^{する}人^が一^巡見^の御^使問^ひ及^び何^里人^も
老者^の一^和田^治太^丈曰^く、ま^と天^野守^藝守^虎景^が
時^に宮^内右^衛門^に至^り、乾^邊多^王維^せ、水^樂
七^百文^と領^せ、使^者十五^人比^夜川^村と^知り^せぬ

里^俗十五^七百^と呼^ぶ、と^後村^名と^りの^事中^にせ
の名^田の如^くと^啓せ、一^巡察^使感^て簿^の
記^すれ、と^りん^村里^の俗^呼、と^りと^りぬ^号回^の
一^多一^村老^の傳^と聞^く、と^り事^にい^ふ

乾^天野^の家^老木^下真^人正^和田^河内^守等
一^り一^其子^孫今^秋葉^の殘^きと^治太^丈河^内守^等
秋^葉山^の觀^音、行^基大^士の^作り^てい^ふ古^き靈^場
三^尺坊^の三^百年^末山^の奈^糸信^列戶^隱の^故繩^と
勸^請と^云ふ^とぬ^と古^録起^ると^正と^りぬ^事

彼山の修験者云

し未、五月八日
使京院談也

○ 愚堂和尚謚寶鑑國師

寛文三年

○ 濃州等用基の地多

正傳寺、就中山城國花寺、
等の如

宇治郡

一と云れ梵刹より荒廢して年久し

○ 或、問、吾子先に密行の僧、穀醬を新、更弘法大師

の遺告に在り、云、大師何に依て、わくま、りや

○ 或、問、吾子先に密行の僧、穀醬を新、更弘法大師

の遺告に在り、云、大師何に依て、わくま、りや

○ 曰、蘇悉地經、蘇波呼經、及び諸供養法、此儀

軌等に多、其旨、わくま、りや、八千枚、儀軌、等と云、り、
一經の、
説

○ 三位中將忠吉、郷清、湏御在城の時、朝日村に老

者、い、古、れ、事、多、御、問、に、答、(自、亦、尾、列、の、回、古、又、と

啓、せ、い、ん、れ、と、筆、記、し、て、家、に、藏、心、朝日物語、當、時

の、一、し、多、し

○ 吉水大師、扁、洛、建曆元年、
十一月九日、の、後、參、内、の、夏、九卷、
足、分、り、具、

月、日、ま、つ、れ、ゆ、ず、し、云、人、い、り、梅、に、正、源、明、義、抄、に、建、曆

元年、十一月、六、日、權、中、納、言、元、親、郷、と、奉、行、し、と

元年、十一月、六、日、權、中、納、言、元、親、郷、と、奉、行、し、と

御参内 以之礼 仰之 御受成と

矢内あり云云 後鳥羽院御受成と
建曆二年正月

大師着病の勅使権中納言光親瓦大并国實

云云 大師入滅の後土御門院勅して唐綾十匹

白布三十端近衛の藏人等と以聘らむ 時御

製衣

後の世の乞ふれそや くらふ公とくふそや

此等の説後京極攝政良経の殿記六卷等に出たり

○聖善大祥忌之辰 用其華 就大雄山誦經 十五口 部歌曲三

香偈

敬袖 袴 三祀 候 錦 涼 棚 下 麥 瓜 差

壽 筵 往 日 絃 歌 宴 變 作 朝 來 一 片 愁 心

祝文

維 正 德 五 稔 歲 次 乙 未 夏 六 月 癸 未 乙 未 朔

越 十 有 二 日 丙 子 孤 子 某 敢 昭 告 于

顯 妣 淳 恭 院 婦 人 藤 氏 嗚 呼 向 秋 田 葉

伴 一 朝 嵐 驟 隙 迅 駒 殘 三 歲 夢 衰 哉 日 月

圖ハ前報恩の硯和尚の筆と云いしことあり
みくく二八の童指と一軸に写し一筆えと長夜
にわけて知恩報恩の至心と勸らむ
一筆の香と捨す けり
とれいのかと云れふにじてありのつものあり
諸友所味 中 香偈

城南精舍寒泉水 抱去灑來真庶羞
一藝堯禮三歲淚 音容在眼使人愁

宣無雁言問前津者 鬱幽灑將庶品羞
強脫齋衰大祥日 終身敢可耐長愁

祭儀欲報深恩重 準擬平生餃膳羞
知是儂然聞往事 乃應難道倚門愁

設奠北堂風雨燒 孝情切切奉芳羞
終身豈謝新機教 強脫衰冠猶益愁

○契田誓願尼寺ハ後井備前守藤長の息女創達の由以古牌に
見ゆ是國恭院殿下テニ誘の内政ありて薨後大皇院
英岩大夫今稱也一秀頼公の母儀也

台廟の夫人宗濤院贈從一位の姉君なり
或人云秀吉公の政所コトトコロハ高皇院湖月尼公也其牌云
從一位高皇院殿快陽心公大姉

英岩夫人ハ妾也又秀吉の妾松丸殿遊後に
毒芽院月見成之久大姉ト号ス

○後西院上皇の女御ハ好仁親王の姫君なりし御法諱ハ
妙吉祥院聖王輔義我英丈夫人

○六月十五日尾西津嶋の御靈會シラヒ國の莊觀シラヒよりゆく
他列の人も多しありんりし十三日の夜ハ府下の旅屋タビヤ
に數千人宿トモして中々のびすじとらめとすす契田の
しし舟フネみり行ツと又數タカもす物々に今年ハ東海通
順礼者トモとぬく十三日府下トモに數人のと宿トモ
ゆりしこれ年饑トシ民のけ殊トトに旅トモ店の貴用サキ前ミに
信シしゆりゆり人かしく然ると契田シラヒのシラヒ
云ツこれハ此春伊勢の師職等シラヒ同東にゆとく
去年コゾより凶年故伊勢熊野路シラヒゆりしシラヒ
登載

らうしこま通じたりやすくひれよすりすらず同く
この順礼参宮ハ逆引りくれうのり家々
同くさぬりかくりしき律義の坂東の民おれ
ゆりてまじりくずとす

伊勢の神人が云とくし意ハ米穀諸品高直る
に大勢入りて飲食路貴と云かりき
入り年の勢よりのり同東の直に米伏贈
ゆりの中々得かぬくして家々の難義うす
こそわら年ハ多ふくたれをにすり前

師職等りさくして

今歳乙未四月十七日

神祖百回御忌祭の後門主准后宮に職務と御
辞退りかへに五月九日久世大和守重之と上使
りておろしりのまにの御事にてよて湯嶋に
新御所と云いあをましくり移りて大明院
宮と称しよしす新門主ハ侍従正今朝臣井上と
輪王寺御住職のり被作出りてり京師にても
花頂の貫首大僧正御坊應譽再び退山のり同東

申^レ給^ヒし五月廿七日諸司代忠之朝臣水師台人車と
傳^ツへて寺務辞表の旨に予色給ふと意らる品日
大師御影前にしと御いとゆ^レすせりとゆと
墨^{スミ}深^{フク}の衣に^レて六條坊門より來迎堂に隱退す
く^レり^レと^レ也實に蓮社の白眉淨宗の高僧也

來迎堂、新善光寺と号す捨世地めく、關東御朱
章の寺産り

○紀公日光山御参り五月十一日 上使森川出羽守即刻御登城りし

五月十七日御系宮廿日山内
府云云

尾公日光山御系り

六月十日 上使大久保長門守登城御馬
御拜受 紀公に申し 十三日發駕
廿日御飯府

六月十七日御系宮

○攝陽群終十七卷、難波人某國田所選也攝津風土記

絶後乃一補と云ふ乃と其中遺忘し備へし事と

坂自亦言以加一竹事如左本文と畧し或は其意と
取てさる所多し

大坂

日本書紀仁德天皇御製衣に鳥瑗介と侍りて新紀

鳥瑗介ツサカ小坂ツサカと侍り今東生郡天王寺村多相坂是也

相と大と倭語近ト故と後世大坂と作ハ明應の

比と其前めは是と云ふ

依網任吉郡 大依網神社武内四座名神大社也大己貴命此孫

仁德天皇紀と依網氏倉阿弭古是神功皇后紀所

謂依網吾房と同一今吾孫子村有或ハ阿孫子書也

名哉或ハまづとも流り

何名のまづの園乃王造投かぬまの林を想ひん 好忠家集

いふと夫木と乃せく 白流の名まづの園の書せ

まづの名まづの音便也相のの越所名同一也

徳筑紫尾張りも亦まづの園の書せ

阿弥陀池 御池也

昔善光寺此如来捨出せし池と云侍と故元

禄十二年宮よ一寺以建蓮池山智善院和光寺

異し信列善光寺元七番此像以てして安置

梅まづの守屋運金像と捨難波堀の大和國飛

鳥此里に在り豊浦寺の事名所同トれ振列の難波

堀江と捨像の作くりま和列の難波堀と流し

分玉林抄と云く

高津タカヅ 吟ウタツト

風云記フウウンキ天推房テンサヒロ天降テンカウの時天探テンサツサ磐船イハネフネノ事ありあり
る事泊トモりしと云イハり万葉集マンヤク亦角磨ツノカサ乃ナ方カタ也

久キウし乃ノ天アメのミこノまマがガ磐イハ船フネのノ泊トモしシ高津タカヅハハウウヤヤリリウウトト

三津ミヅ

難波津ナニハヅ高津タカヅ數津スヅ乃ナニニツツとト以ヨくク三津ミヅ浦ウラとト稱ナふフ事コト

板田橋イタノハシ川也カハ郡上ノ坂ノ郡ノ村ノ一ノ流ノとト同ト郡ノ七ノおノ村ノ在ノりト又ト尾張ノ崎ノ

此名所ココノナカ大名高ナマノタカ小根津コネヅと書カし又マ又マ乃ノ尾張ノのノ名所ノと
云イハり板イ田タとト撰列センリツ上ノ坂ノ郡ノ村ノとト小根津コネヅ田タとト号ナすス事コト

乃ノ尾張ノ田タとトシシババタタとトシシ乃ノ尾張ノ田タ神カミ社ノ乃ノ昔ムカシ板田橋イタノハシ有アりト

尾張村オウヅカ今イマハハ針ハリとト乃ノ尾張ノ田タ神カミ社ノ乃ノ昔ムカシ板田橋イタノハシ有アりト

乃ノ西國ノ郡ノ同トドドツツとト是コノ乃ノ也ナリ

長柄ナガテ西成郡ニシナガテに在アり

新ニ日本紀ニのノ訓ノみミはハ奈加江ナカエとト讀ヨりト

白石玉出水シライシタマデノミヅ

天王寺テンノウジ乃ノ亀井水カメイノミヅのノ名ナ也ナリ但シ亀井水カメイノミヅとト了兼トヨシカネのノ初ハジメ也ナリ

北畠顯家郷キタハタキミノサト 中細言ナカホソコト 戦死タケシ古墳コフムのノ地チハハ東城郡トウジョウノ野村ノにニ在アり

俗ソコ大名塚ナマノツカとト南ミナミ方カタのノ忠臣チウジン名ナ家ケ乃ノ武勇ブユウのノ功臣コウジン也ナリ

土塔塚 土塔宮

天王寺南門の外に在り牛頭天王と奉りしと云く土塔の名に

不詳 ニキナラ

帝陸帶塚 ヒシノチノシヒノ 住吉船堂村に在り

傳曰尾張國瀬戸の若宮帝 加茂宮の事 永平寺開祖

道元和尚は從ひと云ふしは後り彼國の云はれり其

て茶入の境より云はれり名はく多田帝死す

信く其云は惜便此所は埋り故かく呼と云

澤上江東生郡カスガエ

尾張國春日井と初近

雅波羅城

日本紀 ニナ九 雅波羅城 ヤハロ 昔日根津職と置

西方此鎮と云はるしは

表明神 東成郡 杜村 天明天皇と祀と云

此社の神室に古に旗あり其銘に天下有貴物人心

也理非法験天と書せり是後醍醐天皇此宸翰に

て楠正成り賜りし旗なりと云り

多田宮 河内郡 多田 多田院村

祭神五座満仲云頼光云頼信云頼義云義家云也其
中ニ満仲云ハ二十四歳の御影云々（註）緋とゞの御鏡
御太刀銀鞘金の鍔（註）右ノ矢と持（註）御
連鍔葦毛の馬ノ御（註）連鍔の鍔と云々

迎年正一位（註）逢（註）天王寺四圓院 凡ク又寺中首此四院の寺なりし

敬田院 泉生帰依の場所 新悪修善の寺
是坊舎の号なり

施藥院 葉州と云々（註）施（註）葉と知（註）

療病院 赤楊の病名と云々（註）

悲田院 貧窮を頼の民と集（註）衣食と給（註）

按（註）河州兩國官給の中ニ于末（註）此費用（註）給（註）今日天王寺村（註）道頓堀天満
寄任の地（註）其地と看
顧（註）長吏と稱（註）後世（註）食の部（註）京師南都及び難波等の悲田（註）入（註）養
孤獨（註）地所（註）移（註）者
云（註）と云（註）
一心寺 天王寺村（註）磨山（註）の下（註）在（註）

昔五智光院の新別所也天台座主慈円大僧正天王
寺法務の時更漸大師新別所と營して日想觀法
と修し終ひし後白河法皇と臨幸ありし法跡也

南無阿弥陀仏といふやうに法皇の御あはれも
ありしに難波のあまの宮に
六字の聖号も此
神と書添りし

心寺付宝也 數百の星相と歷しく慶長年

申よ然蓮社本矣言存岸上人 三列の産
天野家 中興の祖と云

一心寺と号せし山号と坂松院号と高岳と稱す

東照大神君當寺上人御 慶長五年 ありし 道寺實

孫の望と回せしまひしは境内不殺の禁ありんる

以のし終りし世故の求一事と云かりし 神君其

志と御感ありし殺生極断の制れと賜ひ且坂松

山の寺額御筆と深きをたぬひしと云りし

神君の御幼息仙君早世由りしは本卷上人焼

香の通寺師よりし高岳院華意林陽大童子と云

まろせらりし 十時慶長五年二月七日早世

尾府下高岳院はとと甲斐國よりし持名山教安寺

と号りし 童子香火の場とありしは後御院号と

移ししむ

福祥寺と号し

平教盛の女ホロ管ホロさぬ及び所持せし笛フエ等什物
藏ツサじ教盛目録の和歌とてあり

庚雪

音壽丸

寄和祝言
もろめろねよ子とせのきみせくくくしとや新の月
其真影新四の二福あり新の因列の荒花氏寄附也

有馬湯の山善福寺ハ豊之臣殿下秀吉の叔父大清和尚建立

光徳山と号し曹洞流の寺也

獨鈷山鑄射寺 有馬郡山田村

此寺ハ聖徳太子の同基也寺記ハ太子蝦夷オホシと闘カひ
時鑄矢カハラマしとあり留ルへ故寺号とし

カハラ寺と流或ハ蓋来寺と書り梅ウメの尾列

海部郡日置庄車打井村カシムライ 正一位車樂カム名

神カニと云社あり是尾張郡カニ社ヤサあり神八井ミノ車ミナ名と

祀ミしり横列のカハラ井と恐オソらハ是と号し

寺傳ハ野俗の所傳より起りて聖徳太子の事と記せら
れ也太子崩夷と闘ひ終ひし事紀よるにむらり

阿弥池堂 有馬村南若院と号す

此庭中より徒石と云石あり 高き十竹丈二株ハ團
あはれなり

二本松 有馬郡原風村

一株ハ古樹あり其團ニ尋竹ニ高き十竹丈二株ハ團
ニ尋むらりうさへ木あり同じくニ株一毛よる生じ
山神あり村長あり其子の所長とひらふ事
遠列見付府子ニ和松の村あり日本書紀

あはれなり今日天神の祠あり打鼓あり

泉列堺顯本寺 蓮宗の備某後遺俗一高三氏と稱

自隆達と号す其子と云歌唱ありと云初

堺柄町の醫師頼慶と云者の子喜多長能と云い

當條の勤太夫と云者ハ孫樂と号す其母と号す

これと云はめ七太夫と号す

同子そ百番強其二十五番ハ今も其某が子事屋

道院櫻比おールりと言及院の堺の
車所の者

右の印抄よるに於て一と云も暫く隠し侍りし

○イフクシマ叡鳴乃をその記ハ藝列 叡鳴の全志也近世貝原益軒
筑前公寄ニ寄京やぐろ大和やぐろ有馬名不死木曾
路の紀日光山名勝記及び法列やぐろ等のみと述べて
刊行せし皆太平日久一歩故文雅の士徳國の列
縣志其絶つるとはいつくをよひろくせしるんを
見やうぬ國軍の故と居井やぐろ知るやうらあひ
さうんや

○諸官合員墨士にして受賄シツ鬻ウツク獄キョク獄キョク律リツ律リツ倭ヤマト漢カン

今古たふらあ代々ヤク嚴制と下シタりて剥ハク民ミン
の賄ウツク私シと禁シムどぬゆチカ近チカくハ 文照公御代コトノミ
始ハジメ官府の中殊コトに鑽刺とウツり

多々タタ猶ナホ 國家今日コノヒ 買袖ウツク成道ナリチのみことくも皆
にニて今イマ茲ココも未七月の制シヨウ曰イハレリ

公事訥訟有之者トモ共奉行役人中并其家來
之末ノヘがとトも内縁と求モトめ膏物と相贈ウツクり

制禁有^り之候違犯之輩に至つては之を以て理運之
公事其謂^はり^の新訟より一切に許容^せり
包^くず若^し又裁許の年月と^るお^のま^のり
も多^かく^のあ^らは^に及^ぶる^罪科^に行^はる^べ
づれ者也

七月

嗚呼^{ア、}芭^バ蕉^{ジョウ} 寅^{エミ}縁^{リン}の^不潔^{ケツ}返^{タイ}に^テ年^{ネン}直^{チキ}求^{モト}る^ル
の俗^ノに^至る^ル人^ヲ其^レ貪^{ケン}汚^ウの^こと^と止^トむ^ルべ^しや

○或人问我 公領木曾山の材木洪水に漂流す
る^レ地領の民これと^るを^し取^りて^おの^れ利^ヲと^する^事
事^前より^制禁^せり^しり^も猶^ツ今^キも^さら^にし^れ
又^聞へ^りし^に此^ノ書^ヲ 柳^{ヤナギ}宮^ノの^有司^シ廻^マ文^ヲし^り
其^ノ書^ハ如何^ニ曰^ハ其^ノ文^ハ如^シク
尾^尾張^張殿^殿領^領分^分木^木曾^曾山^山の^伐出^出候^候諸^諸材^材木^木洪^洪水^水に^由り^て
川^川筋^筋前^前こ^のと^を振^振加^加候^候に^由り^て宝^宝永^永五^五子^子年^年
御^御至^至中^中枝^枝 仰^仰後^後木^木曾^曾川^川筋^筋の^山元^元の^勢別^別

長嶋領系名領堺川領通在之、
勘定奉行觸書指在之、
堺市海也、
相國、
寄、
村、
海、
上、

三月十日

萩屋

松野

工入

浮

水

水

堺列系名長嶋堺市

四月九日

諸村あり右川多海を 仰科社領の村

松平下編守領分 奉右

濃列御郡代上配十九村

近きら御代官下 シタ 五十五村

増山對島守領分五ヶ村

第六月の洪水 我 公府の百司太の詰村に

通し流すよきありし

。洛東文殊院に德善院を以法印 前印 の影像

ありし今一乘寺村圓光寺に移し置

極ず於て文殊院ハ 高野 高野山木食奥山師の寺

よりて玄坂を越え上人の檀越より其營作

善と尽せし然るに元禄五年高野山行人 カク 此

僧不法に依りてこゝより配流せしりし文

殊院も行人方の寺なりし東都護持院

の末寺なりし新義院なりし

洛西乙訓寺 今里村ハ弘法大師の旧跡なり

之を一旦故有て南禅寺の伯英和尚彼寺

と領せしむる禪院とすれり護持院の

大僧正毎よりと密院に後せましくも

折り文殊院ハ南禅寺と地境近し故に請て

乙訓寺と其地と替再其の功と成せしめ

又文殊院ハ禅徒の居住とすし 今ハ又京也此地と昔の乙訓寺とあり

此時玄以法印の影と以て圓光寺は送り移

せし彼寺の見住と前田藝判の住あり故

先祖の影ありと南禅寺より沙汰せし

圓光寺の院主ことと入て案す但し我後地

氏此寺に住せしが又必し像と廢せん

玄以のちよりゆん寺院は安置せしめり

とす

鳴呼法印ハ豊臣家の三奉行に隨一ありて當時

威とすに飛くがに今ハ其高微々にして

其遺像と云はれし宗^{アガ}祀^ス者ありてありて
ありてありてありて一移^ツ侍^スるは因^ツりて其の
盛衰定^ルく侍^ルれり今日世に時^リく者此祖先
其の侍^ルるに事^ト面目^{イガク}に香火の供^クも嚴^ニ重^ニに道
果^シ殿^ノ真影^ニこそ何氏の牌^イ子^スありてありて
くくもも語^リ侍^ルり鳴^ア呼^イ護^テ持^テ院^ノ情^トありて此像
と地^ノ宗^ノありてありて南^ノ禪^ノ寺^ノありてありて
文殊院^ノ其^ノ終^ニにありて安置^スるありてありて
僧^ノ等^ノ只^ト名^ノ利^ノとのみ謀^ガ一時^ノの驕^リを捨^テるが
故^ニなり他の追^テ遠^トと不^レ者^トありてありて
なりや近年濃^ク高^ク須^クはん 羽^ノ林^ノ家^ノ 義^ノ行^ノ公^ノ 徳^ノ永^ク
氏の遠^ニ心^トと秘^トもありてありてありて
御^ヲ表^スりてありてありて事^トなりや僧^ノ法^ノ師^ノハ毎^ニ
に法^ノ東^ノ万^ノ矣^ノの回^リ向^スりてありてありて其^ノ寺^ノ院^ノは
昔^シ大^ノ檀^ノ越^テたり人の靈^トとは捨^テてありてありて
利^ヲもれハ位^ノ牌^ノ遺^レ像^トもありてありて塵^ヲ汚^スり

くらゆる熱の都鄙皆同トさぬをせれ^{ソホ}覚へ花
やうほしくこのくすぶらせむねを^{ツク}つりさ
りしくすれゆるものとしんせ^{ツク}り敷きぬ
先の死後のしんたくともい置^{ツク}ゆるんを^{モツク}思は
り我府下委禪寺ハ該井備前守長政卿の菩提
道場なり今ハたそあぶくろを^{ツク}りしる

永立寺殿貞菴道松大居士 忌日六日

暁子^{ハイス}そむし〜く^{ツク}強^{ツク}とごと^{ツク}辛^{ツク}年^{ツク}入^{ツク}り^{ツク}り^{ツク}り^{ツク}
ゆるにやさうころり波寺に^{ツク}旅^{ツク}で^{ツク}月^{ツク}に^{ツク}夜^{ツク}聯^{ツク}句
〜を^{ツク}に^{ツク}任^{ツク}持^{ツク}

迎^{ツク}月^{ツク}月^{ツク}徒^{ツク}暗^{ツク}

と^{ツク}あ^{ツク}せ^{ツク}〜と^{ツク}予^{ツク}

入^{ツク}秋^{ツク}秋^{ツク}更^{ツク}長^{ツク}

○ゆるゆるしも昔とらして僧も近^{ツク}き〜ころ^{ツク}二^{ツク}未^{ツク}四^{ツク}月^{ツク}寂^{ツク}

せうとゆるし^{ツク}香^{ツク}蘭^{ツク}盆^{ツク}會^{ツク}の日^{ツク}彼^{ツク}多^{ツク}れ^{ツク}跡^{ツク}さ^{ツク}ふ^{ツク}

ゆるし^{ツク}が^{ツク}田^{ツク}〜韻^{ツク}字^{ツク}と^{ツク}ち^{ツク}ひ^{ツク}が^{ツク}〜一^{ツク}絶^{ツク}と^{ツク}吟^{ツク}せ^{ツク}

枕上吟魂

ナヒバ

蝶身夢一場

古林烟雨暗

別帳與秋長

○ 飄ハ旋風カツチカゼチ々々ルハ過風のコ外微風カ々々

草とゆがぬ一旦一所急ニ起リてめレぐレゆくエ

砂とまレづレして近シれとン々レ物ヲゆレて追ヒ

に似スる其ノ小ハ圍カ敷キ又ニ塵芥と吹キ

ゆレがレいレはレきレハ思ヒれと空中ニ吹キルレ物ヲ

吹キルレとモもレ其ノ大ナきハ屋ツ破レ木と後きレ石と

飛トす京師東都ハ時々大飄ハりテ觀ヲ師ハ其ノ神

也又封姨傳早八姨同上二録幽怪少女公明傳

ふレ皆風神の谷也我國ノ一ノ級長ノ邊ノ神

とコスレハハ風の追ヒすレと雲々レて屋ハ何

べき

○ ありハの外ニ職ニに擧げレれレ比或人ノ方カ

賢一とレづレれレてレくレるレこト行ハ

藏時ハやレまレきレ之ル事ハ八月

旧看幾歲衡明月 不意 鏡宮照仕人迹
謝子行藏非我事 風籬徒繫一胡塵

○中奉後章 新穀祀 祖先香日詔

星祥合穗 熟連晴

景苑又多 蘭桂 莖

夙宗五雲 耳露 澤

家々 泊々 有年 秋

印日輪山の上人 炬範 賀章と貽りて

三枝の松の葉のわけて緑あまふ世の業と
か家紋也

と祝されゆりほどに謝 込りす

括のこぶきの埋本とよぶらぬる葉の
めぐこまら垣

○葉月三日 在少將家 義行云 かつれふせり

訃聞了てに到りて致書きよす 御座近くす

いふての如くぬるをのこすもふれぬる也

青天水 俣りぬるさぬるさぬるのやりに

よめて紅涙もろく袖にちりゆくも
御方のちりゆくも事と
下とみぐさ給ひて御声名天が下に重くしり
せしすうて華封の祝と献し
有為の境兵常の理とこれちりぬる
うひるれ六士の秋の露に降りてしり
御方ごうの御いりし
恐駭馬の書とあつたりし一絶の

哀詞と筆に任せゆ

昨夜西風東海愁心驚傳鶴駕伴仙遊
清輝残夢武陵月花候更露一葉秋
我近年不幸ありし御方にけり海を法師
に承ゆるをりしに謝
此度身の慌い先かと啓せし雁書い
東都にいらぬ事
りもろくもろくも

七月九日の夜使とす

あづさのこかげそふひあれたはそめはさや
まじふ林の序の
うつくも 遠くぬ程のそくけさけありあまよる
ふつ代のもりり

○中秋の月やもすれば老霧光と埋濃雲影と晦
桂光一年の明定——好事の士恨多つるは去年
わづか天清月静なりしもい希々や今秋望
ひら雲時々くしく雨さそそ月之くま
人契約のり——はやうらんきともしに

きや清て月東嶺に浮暮烟うはう
う白霞——春の夜に似て——
こふひ来てわづか風つづ——
きはむ山氷調の歌と——
み——昔の月とよのむら

天公豈忘中秋月 雲断寒宮碧玉柯
静拂素風芦花露 襟懐似旧更吟哦
おきとけ——山のとれ月にいさぬ林の夕風

五更に睡りて破窓白く半疑の月霜いづよし
白露のひすぐぬるにわすれずしむすの曙

中秋遊白華園因賀

主羽擢頭官

木宗職再拜

傲嘯煙霞事能休一朝通籍肅清終
名高月影娑娑夜譽起桂苑馥郁秋
豪氣今宵侵北斗風流異日賦東遊
交歡何用投車轄到曉醉顏爛不收

和賀頌

白華翁

老去塵纓安四休自慙官事更無修
管筵卷霧雖吟月古鏡照霜不勝秋
一夜旧知縱笑語行雲世外任浮游
天香開遍桂花露只聞金風拂晚收

壽月祝

江柳

名もなきくさしき世の秋もみそりおのけけ

年及ぬるのうらむしき勢いぬて光るる秋の月が
老のまじき月（詩）のげらううもく人にされゆめ
いさふら我せいそとの秋の月るのみりりか

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 親明, 性, 末, 之, 礼, 只, 可, 視, 情, 義, 疎, 密, 以, 為, 隆, 殺, 若, 乃, 計, 家, 道, 貧, 富, 作, 青, 白, 俗, 眼, 量, 子, 姓, 與, 裏, 為, 炎, 涼, 世, 能, 心, 者, 則, 市, 井, 交, 易, 之, 道, 而, 風, 俗, 薄, 惡, 最, 明, 顯, 者, 也, 有, 道, 君子, 必, 不, 見, 然, 齊, 家, 寶, 要, 上)

○親明性末之礼（下）只可視情義疎密以為隆殺若乃計
家道貧富作青白俗眼量子姓與裏為炎涼世能心
者則市井交易之道而風俗薄惡最明顯者也（上）有道
君子必不見然（齊家寶要）

礼を性末と云ふより人情よくなくとも君子
所得の徳より有るべきもの我よりあるものをばくもの
必ずしも過てく責望せざれ今卿俗一桃李
と相移ん事と求る者あり何れを鄙しき世

山^{アミ}壽^{シウ}を^{シカマ}と^{セリ}りて^{シトモウシ}礼^{レイ}と^{フコナ}行^{ユキ}ふ^ミ者^シあり^シん^ヤ

○秋^{アキ}丁^{テイ}の日^{ニチ}勝^{シヨウ}氏^シ賦^ヒ王^{オウ}沃^{ボク}如^{ニホ}秋^{アキ}露^ロ一^{イツ}絶^{セツ}

月影昭然^{ツキカゲシヨウゼン}細水流^{ホソミヅリウ}傳心^{デンシン}統字^{トウジ}道何休^{ミチナニヒユ}餘波東^{ヨロハヒトウ}徑素^{キョウソ}

王^{オウ}沃^{ボク}露^ロ濡^{ニル}杖^{シヤウ}来^キ滿地^{マンチ}秋^{アキ}

和^ワ

珠^{シュ}油^ユ潤^{ジュン}々^{ツツ}不^フ断^{タン}流^{リウ}人^{ジン}和^ワ天^{テン}贊^{サン}自^ジ惟^イ休^ヒ白^{ハク}頭^{トウ}青^{セイ}眼^{ガン}

文^{ブン}園^{エン}月^{ツキ}桂^{ケイ}字^ジ松^{ソウ}琴^{キン}更^{メイ}有^ユ秋^{アキ}

○駿^{シマ}州^{シュウ}が^ガ東^{トウ}へ^ヘの^ノ河^カ原^ハ計^{ケイ}美^{メイ}野^ノを^ヲ流^{リウ}す^スる^ル事^{コト}也^{ナリ}

○土^{ツチ}俵^{ヒョウ}某^カが^ガ描^{エガ}ゆ^ユめ^メる^ルに^ニ十^{ジュウ}二^ニつ^ツの^ノ色^{シキ}ざ^ザり^リし^シと^トア^アら^ラる^ル

一^{イツ}に^ニ十^{ジュウ}一^{イチ}月^{ゲツ}の^ノ糸^{イト}に^ニ大^{ダイ}う^ウら^ラら^ラる^ル民^{ミン}の^ノ家^カ々^{カカ}と^トす^スて

二^ニ庭^{テイ}火^カと^トは^ハれ^レ神^{カミ}と^トし^シる^ルも^モし^シめ^メら^ラれ^レに^ニあ^アら^ラは^ハす^ス

書^{カキ}て^テ天^{テン}の^ノ岩^{イワ}戸^ドの^ノ故^コ事^ジと^トし^シる^ル其^{ソノ}御^ミ史^シ燒^{ヤク}の^ノ

繪^エに^ニ紙^シす^スご^ゴ今^{イマ}の^ノ京^{キョウ}の^ノ町^{チヨウ}に^ニも^モあ^アら^ラは^ハす^ス

人^{ヒト}や^ヤ夕^{ユフ}れ^レめ^メや^ヤ此^{ココ}繪^エ七^{シチ}八^{ハチ}十^{ジュウ}年^{ネン}以^{ヨリ}前^{マエ}の^ノ如^{カド}し^シ

ス〜〜



近世諸社の神人ス火祭シエエノマツリとてし〜くすゑに
 人ヒトに喜田ウララベのト部ベゆ〜しづせか神通護ガ層マ
 の名ナとかくしめさる〜真言家の行事と
 して作ツクりしづせかゆと天アマの岩戸イハドの故事コトなど
 してをモゆるまの競ケうられ東師ヒガシノシ火ヒ祭マツリの故コト
 とも知チらぶ〜くくやゆ〜又山ヤマ崎サキ敬義ケイギ傳デン
 とも〜平風ヘイフウとさす事コト東都トウトに此コノ比ヒら
 多くオホク聞キけり等ナリのナリ符マシ或シ人ヒト敬義ケイギと評ヒヤク



...て製し親との...に儒に入...の
つとして巫に...る...り...格の
御
天の宮の...に生...る...と...
や...も...り...る...
...

。木氏某の慈室一甲子初度の賀—

扇に依...る

静用海彦...
静用海彦...
鶴筭為...
初第一等

佳氣峰深琪樹...
暁 壽香 頤郁...
菊花 秋

...

...

〇土佐令と山内令とより諸家の本草に見るが
 りも草名餘程冷飯團等の異名の外今清
 船に載來ヒト土佐令の條には尾松ヒシの字あり是亦
 本草綱目に与れる名歟凡そ藥種の名時や
 州郡との郷諺或人云ッ山歸來ハ倭人好づく所
 況や鳥獸草木の類ソレハこ有元其名も亦異タコト
 也カホ多し一ととありヒト如く顔カホ多しといふともあり也

〇乙未九月廿九日 大樹婚儀と定めり也終り

法皇御所の姫宮ハソノミヤハ十字ハソノミヤとあり仲年

三家御所ハソノミヤ乃ハ備大臣備大臣名ハソノミヤ 命と

文て別ナ頁せらば

七月二日竹御堂崎守河部能宅守登管并上河内守 台令下を修くらば
 我カ 公 前相前相國家照の御ハソノミヤ女ハソノミヤと小君ハソノミヤ斗ハソノミヤ定ハソノミヤめ終り

台令ありて此度御入 内所ハソノミヤとハソノミヤきハソノミヤ 常君ハソノミヤ

仲年のハソノミヤ妹ハソノミヤ安ハソノミヤ巳ハソノミヤ君ハソノミヤと聞ハソノミヤ一ハソノミヤ所ハソノミヤ母ハソノミヤハ町ハソノミヤ瓦ハソノミヤ宰相ハソノミヤ

の御井御はまの四方とくま

今や世にふかき水と 田舎の人の心持
の御井の四方に 田舎の人の心持

○秋 玉 海軍國 家の木と路のついで
二階を築き 田舎の人の心持

川 流 家 田舎の人の心持

田舎の人の心持

○今 月 田舎の人の心持

田舎

